

鳥取県美術館整備基本構想の検討状況をお知らせします。



鳥取の未来のために、 美術館を。

県立博物館で開催したワークショップ「落書きばんざい！」の様子

私たちは、鳥取県立博物館の美術部門を、
未来の鳥取を創造する独立した美術館として
次のように生まれ変わらせたいと考えています。
ぜひページをめくってご覧ください。

開館後 40 年以上が経過した鳥取県立博物館は、次のような課題を抱えています。

- 建物の老朽化
- 収蔵庫の過密化
- 駐車スペースの慢性的な不足
- 施設設備の制約による展示の更新や体験型展示の導入の困難
- 県民の作品展の開催が十分にできない など

そこで鳥取県教育委員会では、3つの分野（自然、歴史・民俗、美術）のうちの美術分野を独立させ、鳥取県の新たな文化教育拠点として美術館を整備したいと考えています。どのような美術館にすべきかについては、現在、美術や文化施設運営の専門家、利用者の立場を代表する方々等で構成する「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会」で検討しています。

**ひと、もの、こと、
過去、現在、未来、
鳥取、日本、世界、**

**つなげよう、美術館で。
ひろげよう、美術館で。**

いま、なぜ美術館が必要なのでしょうか。

人口減少の時代に地域を再生・発展させるためには、その地域固有の自然風土や歴史文化を守り、さらに磨いていくことが欠かせません。なかでも美術／アートは、過去-現在-未来をつなげ、継承・発信・交流等の取組により、県民の創造性や地域の魅力を向上させるものです。その拠点となる美術館は、子どもたちの創造力を育み、鳥取県の創生を図るために不可欠の社会インフラであり、早急に整備する必要があります。

新しい美術館は、何をめざすのでしょうか。

「鳥取県にゆかりのある美術を蓄積・継承すること」と「国内外の優れた美術を鑑賞・学習する機会を提供すること」が新しい美術館の活動の目的です。このような活動を通じて私たち一人ひとりの文化的な創造性が高まり、地域の文化的な魅力が増していくことで、県内外からさらに多くの人々が集まってくる。そんな新たな交流と発展の核となる美術館をめざします。

新しい美術館では、 どんなことを行おうのですか。

■ 鳥取県にゆかりのある美術作品を中心に収集し、保管します。

- 本県にゆかりのある作品を中心に、さまざまな作品を体系的・計画的に収集します。
- 適切かつ安全な環境のもとで作品を保存、管理して次世代につなげます。
- 収蔵作品をジャンル別に専用の常設展示室にて紹介し、いつでも美術作品が鑑賞できる環境を整備します。



前田寛治の作品を中心とした展覧会「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱」会場／2016年



「ベルギー王立美術館コレクション」展 会場の様子／2009年

■ さまざまなジャンルの展覧会を開催します。

- 国内外の著名作家による展覧会を開催し、鳥取と日本、世界をつなげる機会を提供します。
- 鳥取県ゆかりの作家の展覧会を開催し、文化的個性の醸成に寄与します。
- マンガやアニメなど様々なポップカルチャーについて積極的に紹介します。
- 館内のフリーゾーンや野外のオープンスペースで気軽に美術に親しめる環境をつくります。

■ 多彩なプログラムによる教育普及活動を行います。

- ワークショップルームを設置し、体験しながら学べるプログラムを充実させます。
- 家族や子どもを対象とした美術鑑賞のプログラムを提供します。
- 県内の小学校3年生全てを、年に1回美術館に招待するなど、児童生徒の来館を促進する事業を実施します。



ワークショップ「線の森を探検-ビニールトンネルに入っちゃお!」の様子／2013年



高校生キュレーターによるギャラリートーク／2015年

■ 収集資料をもとに館外の研究者等との調査や研究を行います。 ■ 県民のみならずと協力して、様々な事業を行います。

- 収集した作品や資料に関するデータベースを構築し、館外の研究者や一般の方々に広く情報を提供します。
- 県民ギャラリー等、県民の創作発表等の場を提供します。
- ボランティアスタッフと共に、資料調査や普及活動を実施します。
- エントランスホールや野外オープンスペース等で美術系古本市やアート系フリーマーケット等を開催します。
- 美術サークルやNPO団体などの絵画教室、陶芸講座等を行います。
- キッズルームを設置し、絵本の読み聞かせ会等楽しみながらアートに触れる機会を提供します。
- 国内外から作家を招き、専用のスタジオで制作・発表を行うアーティスト・イン・レジデンス事業を実施します。

美術館の施設設備や運営費等の試算について

機能と施設設備

現在の施設では十分に果たせなくなっている収蔵展示機能や、地域や県民との協働・連携を促進するための機能を充実させるため、作品の保存・展示に最適な環境を維持できる設備を備えた収蔵庫や展示室を拡充したり、ワークショップ専用ルーム等を新たに設けることを考えています。そのような施設は、延床面積が12千㎡ほど必要で、建築工事費は70～100億円程度かかると想定されます。これを建設することにより114～164億円の経済波及効果も見込まれます。

運営費

新しい美術館は、1年を通じて多様な展覧会や各種イベントを開催することで、年間20万人（現在の約3.5倍）の方々に利用してもらいたいと考えています。そのために必要となる経費を現在の運営費に加算し、新たな美術館の運営収支を試算すると、毎年の運営費総額は3.9億円で、従来の美術分野運営費の1.6倍となります。こうした運営によって21～29億円の経済波及効果も見込まれます。

こうした運営費等をできるだけ縮減するため、美術館の整備運営に民間の資金やノウハウ等を導入する方法（指定管理、PFI等）も検討します。



館内設備イメージ例（キッズスタジオ、金沢21世紀美術館）
画像提供：金沢21世紀美術館

立地について

新しい美術館は、「様々な人が気楽に訪れることができること」、「地域づくり・まちづくりに貢献できること」、「必要な施設がより安価に整備できること」といった条件を満たす場所に建設しなければ、機能を十分に発揮して設置目的を達成することはできません。地元の市町村と協力してより大きな効果をもたらす施設とするため、市町村にそうした立地条件に合う場所を候補地として推薦してもらい、最もふさわしい場所に立地させるよう検討しています。

*施設・設備のモデル（延床面積の試算を含む）、建築工事費、運営費の試算等は、皆様に美術館の在り方や必要性等を考えていただくための目安として、他県施設を参考に一つのモデルを想定して試算等をしたものであり、決定された整備内容等を示すものではありません。

新しい美術館ができると、 私たちの暮らしは、どう変わるのでしょうか。

美術館で、多くの鳥取ゆかりの美術作品に日常的に触れることができるようになり、地域への誇りが育まれます。国内外の優れた美術に今よりも多く出会うようになり、多様な文化への感受性が培われます。そうして私たちの暮らしは、豊かで潤いのあるものとなり、地域社会の魅力も高まって、県外との交流も進みます。また、次代を担う子どもたちが本物の美術に出会い、魂を揺さぶられる体験をすることで、豊かな個性と創造力をもった人材が育ちます。彼らに支えられて鳥取県の未来が切り拓かれていくのです。

さあ、はじめよう、みんなの美術館づくり。

【お問い合わせ】

〒680-0011 鳥取県鳥取市東町2丁目124 鳥取県立博物館総務課 美術館整備推進担当
TEL：0857-26-8042 FAX：0857-26-8041 <http://www.pref.tottori.jp/museum/>

 鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

2016年5月作成